

牧野いくおからのメッセージ

私は、市民活動やインターネットのブログ(駒ヶ根に想う)で、駒ヶ根市民としてできることを一生懸命にやってきましたが、さらに一歩進んで、子どもたちに明るい未来を提供する役割を担いたいとの思いが強くなりました。

日本は、東日本大震災で社会基盤に大きな損傷を受けています。被災地だけの問題ではなく、全国の自治体も当事者の一員として主体的に参画しなくては復興できません。

国が力不足であることは、震災発生直後からの政府の対応を見て多くの国民が感じていると思います。地方主権の必要性がこれまで以上に高まりました。

過去の駒ヶ根市議会を振り返ると、議員年金で余生を安泰にするための腰掛議員も少なく、行政との馴れ合いの弊害が散見されました。

右肩上がりの経済、借金財政を受け入れる市民感覚がこれらを許してきましたが、震災が発生した2011年3月11日からは大転換が求められる状況になったと考えます。

行政の無駄を省き、本当に必要な事業の、本当に必要な核心部分から順番に予算をつけていくように変えていかなければなりません。

役所の職員が一生懸命に職務に励んでいることは感謝していますが、潜在的な能力を十分に発揮しているとはいいがたい。

職務能力の向上には、余地が大いにあると考えられます。

そのためには、議員の役割がこれまで以上に求められます。駒ヶ根市が提示する政策の上を行く広い知見が求められます。

地域代表として狭い見で仕事をしていれば評価されたこれまでの議員活動では、これからの苦難の時代を支える役割にふさわしくありません。

駒ヶ根市の将来を支えるべき若い力が議会に参画できるように大改革しなければなりません。

駒ヶ根市議会の改革

●民間企業のサラリーマンが議員活動できるようにしましょう。

議会を休日・夜間開催に変えてサラリーマンでも議員活動できるようにすれば、企業にいる優れた人材を招き入れることができます。平日の日中は仕事で手が離せない市民でも、気軽に市議会の傍聴に訪れることができるようになります。

●議員の所得に応じて報酬を下げましょう。

一定以上の所得のある方々はボランティアで議員を務め、生活を支えている若手は不安なく議員活動に従事できるようになり、市民の議会運営に対する負担が軽減されます。地方財政に負担を押し付ける議員特権をなくすために、議員年金の廃止に伴って現職と引退議員には掛け金のみの一時金の清算を求めます。

●市民が議員活動を査定してボーナスを成果主義にしましょう。

市民目線で議員活動を査定して、評価に基づいてボーナスを支払うようにすれば、議会の居眠りや野次將軍は影を潜める。働きぶりに応じて差を付ける「成果主義」は議員に活発な政策提言を促し、優れた議員がより活動の幅を広げる手助けになります。

行財政の改革

●行政の効率を向上させましょう。

近年、選挙の開票事務が飛躍的に時間短縮され、情報発信が迅速化し費用が縮減されています。この事例を見ても、民間の優れた手法を取り入れて従来の業務を見直すことで役所の作業効率は今後飛躍的に向上させられます。震災直後のグーグルの被災地支援にお手本があります。特化された頭脳集団が核をつくり、単純作業は全世界にアウトソーシングして瞬時に支援に不可欠なツールを生み出しました。給与削減という刺激を与え、業務効率の改善を促し、成果として業務経費が縮減できれば、その一部を報酬として反映する仕組みづくりを念頭に置きます。

●財政運用を見直しましょう。

硬直化した財政にも刺激を与え、効率的な運用への取り組みを促す必要があります。東日本大震災の復興に国の財政支出が偏ることが予想されるために、地方自治体は限られた税収で最大限の効果を発揮する知恵を働かさなければなりません。合わせて地元経済の活性化のために租税措置の緩和(減税)の導入も求められます。歳入が2割減っても財務内容の効率化で3割の削減を達成すれば、1割増額の事業予算が組めるといふ発想に転換していきます。

●職員の能力を最大限に生かしましょう。

役所の職員が一生懸命に職務に励んでいることは感謝していますが、潜在的な能力を十分に発揮しているとはいいがたい。職務能力の向上には、余地が大いにあると考えられます。数年おきに配属が変わる現在の人事は、職員固有の能力を生かすことができないばかりか、不適切な人事異動が業務効率を下げています。ジョブローテーションとは切り離れた役所全域の職務を知る機会を作り、適材適所に人員配置するための職務評価制度の導入を求めます。

駒ヶ根市政への提言

●地域に根付いた産業を育成し雇用を広げましょう。

市外や県外からの企業誘致は、短期的な雇用や税収の増加をもたらしますが、企業は経営的判断から撤退することが珍しくなく、駒ヶ根市の基盤が不安定になります。外からの力に頼るだけでなく、駒ヶ根市の産業がもつ地力を高め、地域の特性を活かした持続的な産業を振興することで市民の生活基盤が安定します。

●農業と新産業の連携を提案しましょう。

駒ヶ根の農地は日当たりの良い斜面が多く草刈が大変です。ここに太陽光発電設備を設置すればエネルギーと売電による収益が生まれます。農地をつぶして企業誘致するだけでなく、発想を転換して使われていない農地を有効活用すれば、本業の農業に傾ける力が増します。

●子育てと仕事が両立できるようにしましょう。

ゼロ歳児を受け入れる公立保育園の数を増やし、近くの保育園に安心して預けられる保育環境を整えれば、出産しても仕事が続けられます。ファミリーサポートセンター事業を先進自治体並みに取り入れ、保護者の病気や病児・病後児のサポート、保育園・幼稚園などの送迎まで、手厚い支援が求められています。

●病院と市民の絆を深め、安心して健康に暮らしましょう。

身近な診療所と昭和伊南総合病院を市民の健康のよりどころとして上手に利用し、健全な運営を支援することで、安心して暮らせる医療環境を目指します。市民に愛される病院になれば新たな医師を招きやすくなり、市民が良質な医療サービスを受けられるようになります。

●防災意識を高め、地域に防災リーダーを育てましょう。

東日本大震災の被害は、地震が発生する可能性がある駒ヶ根市でも想定を新たに必要性を突きつけています。困難な状況が生じても対処できるように人材を育成し、装備を拡充することで、市民の安全と安心が確保できます。

●市民生活を支える中心市街地を見直しましょう。

生活が自動車中心になって商業施設が郊外に広がり、車がなければ生活できなくなってしまいました。中心市街地を核にして、自動車に頼らなくても安心して暮らせるこぢんまりとした街づくりの視点を取り入れれば、高齢者や障がい者、子どもたちが暮らしやすくなります。

●エネルギー自立都市を目指しましょう。

太陽と地熱は駒ヶ根の資源です。原子力発電に依存しない電力を生み出せます。全世界的な脱原発の時流を先取りした次世代型エネルギー都市を新たな駒ヶ根の特色にします。観光にも、新産業の育成にも、雇用の拡大にも多大な恩恵をもたらします。

●赤ちゃんから老人まで、障がいを持つ人も安心して暮らしましょう。

誰もが赤ちゃんだったし、老人になります。福祉の大切さは改めて言うまでもなく、すべての人がお世話になるのだから自分の事として心を込めて取り組めるはずです。お互いの違いを認め、手を差しのべ、支えあえる優しいまち駒ヶ根を目指します。

駒ヶ根市民への提案

「地域の特色を生かした、より豊かな暮らし」

●地球の未来を考えて今から行動しましょう。

地球温暖化を引き起こす化石燃料や、放射能汚染で生活環境が破壊される原子力発電に支えられた私たちの生活を見直すときが来ています。化石燃料を枯渇させ、放射能廃棄物を子どもたちに押し付けることは無責任だと思います。再生可能なエネルギーを利用した持続可能な社会へ、気持ちを切り替えることが求められています。

●暖かくて安全な住まいを作りましょう。

地震への備えは住宅の耐震化が急務です。リフォームなら壁の工事や窓の交換と同時に断熱性を高められます。断熱されていない住宅を省エネ仕様に変えればエネルギー消費は五分の一になって、少しの暖房費で暖かく地震にも強い安心して住める家になります。

●ごみを資源に変えましょう。

生ゴミを堆肥化し、紙ごみやプラスチックを分別すれば、ごみ焼却場が半分の大きさになります。なん億円もの税金が節約されて市民の負担が軽くなります。

●家庭でエネルギーを創り出しましょう。

駒ヶ根市には豊かな資源があります。平均気温が低く晴天率が高いので太陽光発電に適しています。豊かな森に囲まれて木質バイオマスエネルギーが豊富です。山の手入れが市民のエネルギーを生み出す産業につながり、二酸化炭素を出さない暮らしは家庭の光熱費も安くなります。

●広い心、温かい気持ち、優しさあふれる駒ヶ根の良さを持ち続けましょう。

市内には外国から働きに来ている方がたくさんいます。1ターンで市外、県外から移住する人も多い。異文化、考え方の違いを認め合い、お互いの良いところを見出して相互に協力しましょう。大人も、子どもも、老人も、障がいのある人もない人も、みんなが認め合い、助け合う優しい駒ヶ根市民の心を大切にしましょう。

皆さんからのご意見をお待ちしています。

一緒に駒ヶ根市をよりよい町にしていきましょう。

ブログ「駒ヶ根に想う」で情報発信しています！

牧野いくお

〒399-4321

駒ヶ根市東伊那 1089

Tel 0265-83-2790

携帯 08041804716